

岡山県西粟倉村のゴミ・水辺の生物についてのインタビューとゴミの種類調査

名前 渡部紗智

調べようと思ったきっかけ

ウミガメがクラゲと間違えてビニール袋を食べてしまうというゴミ問題のことを知って、かわいそうだと感じた。地元には海はないが、ゴミを減らして生き物を守りたいと思った。もし、西粟倉の山でポイ捨てがあったとしたら、川に流されて海に行ってしまうのでゴミ拾いをした。さらに、今と昔の生物の種類やゴミの種類を比べるために西粟倉の方、A. 環境や生き物に詳しい人、B. 昔から西粟倉に住んでいる人にインタビューをした。

方法

①インタビュー

以下の8人の方にインタビューをした。

A. 環境や生き物に詳しい人

西粟倉村役場の産業観光課職員1名に不法投棄についてとゴミと生物について対面で聞いた。また、1名の職員にはメールで質問を送り、回答をもらった。次に、エーゼログループ（地元企業）の社員1名に環境のことについて、メールで質問し、回答をもらった。



ひだまりさんにインタビューしている様子

B. 昔から西粟倉に住んでいる人

ひだまり（高齢者施設）の利用者の方々5名に昔の川とゴミについて対面でインタビューした。

②ゴミ拾い

2026年1月31日16時20分から17時15分までの約55分間、西粟倉小学校（岡山県英田郡西粟倉村長尾1555）付近でゴミ拾いをした。歩道を歩いて見つけたゴミを火ばさみで拾ったごみは分別して種類ごとに重さを計った。

結果

①インタビュー結果

昔と比べたら魚や生き物の種類が減った。昔は生ゴミが多く、今はナイロンやプラスチックが多いが昔より粗大ごみの不法投棄が減った。ポイ捨てをすることによって生物が間違えて人工物を食べてしまうなど悪影響を及ぼすことを聞いた。

②ゴミ拾い結果

一番ゴミが多かったところは西粟倉小学校北側の古紙回収リサイクルBOXの周りだった。

ゴミの重さは全部で1528gだった。以下に種類と重さを書く。

陶器	18 g	ゴム	1 g	プラスチック	68 g	ネジなどの金属類	455 g
ビニール	242 g	瓶、缶の蓋	20 g	アスファルト	22 g	シリカゲル	12 g
段ボール	412 g	針金	12 g	タオル	266 g		

まとめ考察

西粟倉では、昔よりは不法投棄が減っているけど、今でもたくさんのゴミがあることがわかった。川と山があるため、ゴミが増えると生き物たちが安心して暮らせなくなってしまう。この問題は西粟倉だけではなく、世界中で起きている問題である。不法投棄やポイ捨てによって地域の人々や生物、そして未来の子どもにも迷惑がかかってしまう。ゴミ拾いをしてくれている人がいるから大丈夫、ではなく、不法投棄やポイ捨てをしないことが大切だ。